
第1日 10月18日(金) 13:00~15:30

受付開始 12:00

午後の部会 (13:00~15:30)

部会1 IRAP20周年記念部会 “Competition and Cooperation in the Asia-Pacific”

Chair: Keisuke Iida (The University of Tokyo)

Speakers: Christina Davis (Harvard University)

“Competitive Liberalization Meets the East Asian Growth Model: The Evolving Trade Order in the Asia-Pacific”

William Kring (Boston University)

“How Has ASEAN+3 Financial Cooperation Affected Global Financial Governance?” (co-authored with William Grimes)

Saadia M. Pekkanen (University of Washington)

“China, Japan, and Governing Space: Prospects for Competition and Cooperation in the Indo-Pacific”

Midori Okabe (Sophia University)

“Migration Governance in the Asia-Pacific: On Institutionalization, Emergent Norms, and Redefined Borders”

Discussant: Takashi Terada (Doshisha University)

部会2 「紛争研究のフロンティア」

司会 大林 一広 (一橋大学)

報告 伊藤 岳 (広島大学) “Why Does Ethnic Partition Foster Violence? Unpacking the Deep Historical Roots of Civil Conflicts”

浜中新吾 (龍谷大学) 「地上戦が引き起こす熱狂——『境界防衛作戦』時の旗下集結効果」

窪田悠一 (新潟県立大学) ・大村啓喬 (滋賀大学)

“Wartime Service Provision and State Legitimacy: Evidence from the former FATA, Pakistan”

討論 小濱祥子 (北海道大学)

佐藤 章 (アジア経済研究所)

部会3 「グローバル公共政策ネットワークの意義と可能性」

司会 森井裕一（東京大学）

報告 庄司真理子（敬愛大学） 「プラクティス・セオリーを超えて——規範の多極化、多元化、複雑化と IR/IL 研究の課題」

奥迫 元（早稲田大学） 「グローバル化時代の国際理論に関する一考察——効果的で公正なグローバル・ポリティクスを求めて」

猪口絢子（大阪大学） 「『ビジネスと人権』——サプライチェーンを通じた規範拡散」

討論 本多美樹（法政大学）

草野大希（埼玉大学）

部会4 「民主主義の後退と外部アクターの影響力」

司会 山崎 望（駒澤大学）

報告 中井 遼（北九州市立大学）・山本 直（日本大学）

「東欧における民主化の『後退』の比較研究」

舩方周一郎（神田外語大学） 「ブラジルにおける民主主義の後退？——漸進的な政治改革とイリベラルな反動」

杉浦功一（和洋女子大学） 「民主化の後退に対する民主化支援の影響力の考察」

討論 見市 建（早稲田大学）

上谷直克（アジア経済研究所）

部会5 「外交研究の新展開」（自由論題部会）

司会 田所昌幸（慶應義塾大学）

報告 西川 賢（津田塾大学） “The ‘Nixon Shock’: Japan, the United States, and the International Politics of the 1972 Whaling Moratorium”

毛利聡子（明星大学） 「ESG 課題解決に向けたプライベート・ガバナンス——化石燃料ダイベストメントを事例として」

須田祐子（東京外国語大学） 「個人データ移転に関する日 EU 合意——日本の『プライバシー外交』とトランスナショナルな『規制の政治』」

討論 田所昌幸（慶應義塾大学）

武田 健（東海大学）

分科会セッション A （15：45～17：15）別掲

分科会セッション B （17：30～19：30）別掲

第2日 10月19日（土）9:30～12:00, 15:30～18:20（共通論題）

受付開始 9：00

午前の部会（9:30～12:00）

部会6 日韓合同部会 “Japan, Korea and the Post-Cold War Era” 【英語で実施】

Chair: Takuya Sasaki (President, JAIR / Rikkyo University)

Speakers: Yasuyo Sakata (Kanda University of International Studies)

“US-Japan-ROK Security Cooperation in the Post-Cold War Era: Is it the End of the “Virtual Alliance” ?”

Ihn-hwi Park (Ewha Womans University)

“The Post-War Northeast Asian Regional Security: Characteristic Features and the Korean Peninsula”

Seungjoo Lee (Chung-Ang University)

“The Evolution of Economy-Security Nexus and the Changes in Regional Order in East Asia”

Discussants: Isao Miyaoka (Keio University)

Tadashi Kimiya (The University of Tokyo)

部会7 「コペンハーゲン学派の課題と展望 —— 『安全保障化』をめぐって」

司会 小田桐確 (関西外国語大学)

報告 横田匡紀 (東京理科大学) 「日本の地球環境政策における安全保障化への課題——コンストラクティヴィズムの観点から」

今田奈帆美 (青山学院大学) 「EU 拡大における『安全保障化』の妥当性——リアリズムの観点から」

岸野浩一 (関西外国語大学) 「国際社会を支える諸制度の安全保障化と米中貿易摩擦——英国学派の観点から」

討論 山本吉宣 (新潟県立大学)

塚田鉄也 (桃山学院大学)

部会8 「国際政治学における地域研究の意義を再考する—歴史と社会を重視するバイヤールの分析枠組を用いて」

司会 加茂省三 (名城大学)

報告 今林直樹 (宮城学院女子大学) 「J=F. バイヤールと歴史社会学——『アフリカにおける国家腹の政治』を中心に」

片岡貞治 (早稲田大学) 「カメルーンの政治とバイヤールの分析」

森田豊子 (鹿児島大学) 「バイヤールによるイラン革命再考——イスラーム革命とテロミドールの状況」

討論 加茂省三 (名城大学)

月村太郎 (同志社大学)

部会9 「マルチラテラリズムとユニラテラリズムの相克」

司会 半澤朝彦 (明治学院大学)

報告 政所大輔 (早稲田大学) 「マルチラテラリズムは今もなお重要か——コンストラクティ

ビズムの視点から」

清水奈名子（宇都宮大学） 「国際機構におけるマルチラテラリズムの限界——グローバルな法の支配の行方」

熊谷奈緒子（国際大学） 「国際社会における法の支配——国際刑事裁判所に対するアメリカの一国主義の影響からの分析」

討論 五十嵐元道（関西大学）

星野昌裕（南山大学）

部会 10 「日本外交と同盟」

司会 五百旗頭真（兵庫県立大学）

報告 佐々木雄一（明治学院大学） 「『帝国外交の骨髄』？——日英同盟と日英関係」

田嶋信雄（成城大学） 「日独防共協定・日独伊三国同盟・日独伊戦時同盟——インド・アフガニスタン・イランを焦点として」

佐竹知彦（防衛研究所） 「同盟の「ネットワーク化」——日米豪の安全保障協力」

討論 柴山 太（関西学院大学）

青野利彦（一橋大学）

部会 11 「規範と国際政治」（自由論題部会）

司会 足立研幾（立命館大学）

報告 高橋知子（東京大学） 「国際規範への合意におけるレピュテーション——中国を事例に」
CHEY Hyoung-kyu (National Graduate Institute for Policy Studies)

“For or Against the ‘People’s Money’: The International Politics of Renminbi Internationalization”

畠山京子（関西外国語大学） 「規範・アイデア・日本の安全保障政策——論争回避から説得へ」

討論 足立研幾（立命館大学）

兪 敏浩（名古屋商科大学）

分科会セッション C（13：30～15：10）別掲

総会（15：10～15：30）

【共通論題】 「リーダーシップと国際秩序」（15:30～18:20）

司会 遠藤 貢（東京大学）

報告 藤原帰一（東京大学） 「ポピュリズムと国際政治——国内政治と国際政治の交錯」

大串 敦（慶應義塾大学） 「プーチンのグランド・ストラテジー？——ロシアの紛争介入を事例として」

白井陽一郎（新潟国際情報大学） 「EU によるリベラル国際秩序？——その構想と手法」

討論 松本佐保（名古屋市立大学）

青山瑠妙（早稲田大学）

懇親会 19:00~21:00

第3日 10月20日(日) 14:00~16:30

受付開始 9:00

分科会セッションD (9:30~11:00) 別掲

分科会セッションE (11:15~12:45) 別掲

午後の部会 (14:00~16:30)

部会12 "Warping" in the Global Diffusion of IR Theories: Comparison of the Japanese and German IR Communities

Chair: Tomoko Okagaki (Dokkyo University)

Speakers: Takahiro Yamada (Nagoya University) with Sho Akahoshi (Kwansei Gakuin University)

“How Has Japan Responded to the Globalization of IR Research?”

Mathis Lohaus (Free University Berlin)

“Diversity in IR journals around the world, 2011-2015”

Hiroaki Ataka (Ritsumeikan University)

“Global Knowledge Production and Critical Theory: The Case of Japan”

Discussants: Atsushi Yamada (Hitotsubashi University)

Tomoko Okagaki (Dokkyo University)

**部会13 「東アジア国際関係の新展開——中国の台頭へのアメリカ、日本、フィリピンの対応」
(市民講座を兼ねる)**

司会 細谷雄一 (慶應義塾大学)

報告 森 聡 (法政大学)

「ワシントンによる対中競争路線への転換——その要因と諸相」

高木佑輔 (政策研究大学院大学) 「フィリピンの対中政策の転換——小国の大戦略試論」

竹中治堅 (政策研究大学院大学) “Prime Minister’s Leadership and ‘Free and Open Indo Pacific’ Vision: Responses to Changing International Environment”

討論 阿南友亮 (東北大学)

細谷雄一 (慶應義塾大学)

部会14 「中華人民共和国をめぐる自己イメージと外部イメージの相克」

司会 田村慶子 (北九州市立大学)

報告 佐橋 亮 (東京大学)

「アメリカの中国認識と政策展開——冷戦期から現在まで」

横手慎二（慶応義塾大学） 「ロシア人の中国イメージ——社会学的研究と歴史学研究を基
に」

小嶋 華津子（慶應義塾大学） 「自己イメージをめぐる相克——多様化する自己イメージと中
国の外交」

討論 毛里和子（早稲田大学）

庄司智孝（防衛研究所）

部会 15 「北東アジア冷戦の再検討」

司会 川島 真（東京大学）

報告 清水 麗（麗澤大学） 「1960年代日米台関係と台湾政治構造の変容——信頼なき依存関
係の深化」

高橋和宏（法政大学） 「ブレトンウッズ体制の変容とアジア冷戦——1960年代後半のド
ル防衛をめぐる日米交渉を中心に」

高 賢来（ソウル大学） 「1950年代から60年代初頭にかけての米国の開発重視政策と韓国
経済発展の初期条件の形成」

討論 鳥潟優子（同志社女子大学）

梅本哲也

部会 16 「国際社会における強靱性の検討」

司会 都留康子（上智大学）

報告 小松志朗（山梨大学） 「人の国際移動と感染症——2009年新型インフルエンザにおける
国境管理」

市川 颯（東洋大学） 「EU エネルギー同盟の政治過程における気候変動規範の強靱性
と脆弱性」

城山英明（東京大学） 「重層的多国間主義の強靱性」

討論 高柳彰夫（フェリス女学院大学）

大平 剛（北九州市立大学）